



あと1年となった東京2020大会。その本番は来年の3月12日、オリンピックの採火式でスタートします。オリンピックの聖火は20日に宮城県に飛行機で運ばれ、東北の被災3県で「復興の火」として展示された後、3月26日に福島県のJビレッジをスタートして、日本国内の聖火リレーが始まります。東京都下では、2020年7月10～24日の15日間、全区市町村でリレーされ、24日の夜の開会式で新国立競技場に点火される予定になっています。

ところで、聖火リレーは一体いつどこで始まり、どんなメッセージを発してきたのでしょうか？前回の1964年東京大会ではどのような聖火リレーが行われたのでしょうか？世界の五大大陸を回ったリレーではどのようなことが起きたのでしょうか？このような聖火リレーの歴史と意義を確認して、東京2020大会でどのように皆さんが聖火リレーに関わることができるのか？一緒に考えてみたいと思います。そしてそれが、東京2020大会がめざすが共生社会に向けたレガシー（遺産）となるための課題を探りましょう。

第1回 聖火リレーの基礎基本:その歴史と意義は？

受講料：無料（1回）

定員：50名

場所：飯田橋キャンパス

7月9日(火)18:00～20:00

講座コード 1921Z005

オリンピックの聖火リレーは1896年第1回アテネ大会から始まったものではありません。1936年第11回ベルリン大会から始まりました。その時のねらいは一体どのようなものであったのでしょうか？さらに、第2次世界大戦後は、聖火リレーはどのような歴史をたどってきたのでしょうか？冬季大会の聖火リレーはどう実施されているのでしょうか？また、パラリンピックではどうなっているのでしょうか？このような聖火リレーの基礎基本を確認して、第32回目となる東京2020大会の聖火リレーを迎えたいものです。



講師

ますもと なおふみ

舩本 直文

首都大学東京特任教授

第2回 1964年第18回東京大会の聖火リレー：その時どんなメッセージが？

受講料：無料（1回）

定員：50名

場所：飯田橋キャンパス

7月16日(火)18:00～20:00

講座コード 1921Z006

前回の1964年第18回東京オリンピック大会では、聖火リレーはどのようなルートでリレーされたのでしょうか？国外ルートの決定の経緯やそのリレーのメッセージはどのようなものだったのでしょうか？坂井義則氏が最終聖火ランナーに決まるいきさつはどうだったのでしょうか？この前回の東京大会の聖火リレーで決定的な役割を演じた人物は誰だったのでしょうか？1964年東京大会の聖火リレーを振り返るとともに、東京2020大会の聖火リレーでどのようなメッセージを世界に発信するべきか、考えてみましょう。



講師

ますもと なおふみ

舩本 直文

首都大学東京特任教授

お申し込み方法（詳細は P.72 をご覧ください）

会員でなくてもお申込みいただけます。

- 電話 03-3288-1050（飯田橋キャンパス）
- FAX 03-3264-1863（飯田橋キャンパス）
- インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/
- 首都大学東京オープンユニバーシティ窓口
（飯田橋キャンパス：平日9時～17時30分）

上記のいずれかの方法でお申込みください。

- ・申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。
- ・申込みは受講者個人ごとに受け付けます。人数だけの複数申込みはできません。
- ・申込み時に、受講を希望する講座の講座コード（複数申込み可）を、明示してください。
- ・開講2週間前に「受講のご案内」を送付します。当日は、「受講のご案内」をご持参ください。
- ・ご住所を勤務先にされる方は、「会社名・部署名」を明示してください。（「受講のご案内」が届かない場合がございます）



第3回 国際聖火リレー： 世界ではどんなことが起きたのか？

受講料：無料（1回）
定員：50名
場所：飯田橋キャンパス

7月23日(火)18:00～20:00

講座コード 1921Z007

かつて、世界の五大大陸をリレーした「国際聖火リレー」がありました。2004年第28回アテネ大会と2008年第29回北京大会の時のことです。アジアの一国として日本にも聖火がやってきました。オリンピズムやオリンピックのシンボルマークが象徴的に示す五大大陸の連携から平和メッセージを世界に発信しようとしたのです。しかし、問題も起きました。IOCはこの国際聖火リレーの失敗を元に、2010年第21回バンクーバー冬季大会以降の大会では「開催国内ルートを推奨する」として、残念なことに世界五大大陸の聖火リレーを禁止してしまいました。今後の聖火リレーによる国際連携の在り方を考えてみましょう。



講師
ますもと なおふみ
舛本 直文
首都大学東京特任教授

第4回 第32回東京2020大会の聖火リレー： 共生社会に向けてどんな関わりが？

受講料：無料（1回）
定員：50名
場所：飯田橋キャンパス

7月30日(火)18:00～20:00

講座コード 1921Z008

以上のようなこれまでの聖火リレーの歴史と意義を確認した上で、「共生社会」をめざす第32回東京2020大会でどのような聖火リレーが望ましいのか、また発信すべき聖火リレーのメッセージについて考えてみましょう。さらに、私たちが都内の聖火リレー時にできること、それがレガシーとして今後にも引き継がれるような関わり方ができないか、一緒に考えてみましょう。できればグループ・ワークを取り入れて皆で意見を取り纏めてみましょう。



講師
ますもと なおふみ
舛本 直文
首都大学東京特任教授



オリンピアでの聖火の出発式：聖火を持つ巫女
(2008年北京大会、舛本撮影)



オリンピアでの聖火の出発式：聖火が入っている火釜を持つ巫女
(2008年北京大会、舛本撮影)



聖火リレーの第1走者のスタートの様子
(2008年北京大会、舛本撮影)